

語いと英語教育(24)

Student Talk (4)

「生徒の発話を促す言語活動と評価」

2001年2月6日

東京都中学校英語教育研究会

研 究 部

《 研究部のホームページ <http://www.eigo.org/kenkyu> 》

語いと英語教育(24)

Student Talk (4)

「生徒の発話を促す言語活動と評価」

2001年2月6日

目 次

あいさつ	生徒の自己表現を高める授業を目指して	3
研究部の歩み	4
今年度の研究	8
Student Talk (4)		
1	研究の概要	8
2	第1回研究部会	9
3	第2回研究部会	16
4	第1回ワークショップ	21
5	第3回研究部会	24
6	第2回ワークショップ	28
7	第4回研究部会	31
8	第3回ワークショップ	33
9	第5回研究部会	36
10	第4回ワークショップ	41
11	第6回研究部会	42
12	第7回研究部会	48
今後の課題	51
参考文献	51
編集後記	52

生徒の自己表現力を高める授業を目指して

東京都中学校英語教育研究会
会長 宗方 隆三

今、わが国の教育界内外を問わず、「日本人は英語が出来なくて困る。何とかしなければ」という声が日増しに高まっている。

そのために、首相と文相の私的懇談会が設置され、「21世紀日本の構想懇談会」は、「グローバル化と情報化が急速に進行する中では、先駆性は世界で通用するレベルでなければならない。そのためには、情報技術を使いこなすことに加え、英語の実用能力を日本人が身につけることが不可欠である。・・・」と提言している。

また、「英語指導法等改善の推進に関する懇談会」は、小学校英語学習の導入をはじめ、中・高・大の英語教育の改革の方向を示している。

巷間、よく言われているように、私達日本人は国内で暮らしている限り、日常生活の中で英語を使う必要が全くない。日本語ですべて間に合うからである。

今も尚、「なぜ英語を勉強しなければならないのか」と言う中学生がたくさんいる。ところが、困ったことに経済大国として色々な面で世界をリードし、複雑極まる国際対応を迫られるようになった日本は、諸外国との交渉や交流の主要な部分を、今や国際共通語と言われる英語に頼らざるを得ない状況になっている。

このような英語の必要性、特にコミュニケーション能力の必要性を、英語教師は、説得力をもって生徒を指導し、表現能力を育成する授業の充実を図らなければならない。

そのために必要な英語力を身に付けるには、今までの「ただ覚えて暗記する」というような受け身の学習から脱皮し、身近な事物や毎日の学校で起きていることなどを題材にして、生徒が自己表現できることを目指した発信型の学習を目指すべきである。

自分の世界を自分自らの言葉で表現すること、そして、それを英語という外国語でどこまでやれるかが、これからの発信型教育の目指すべき目標である。新しい学習指導要領は、まさにこのことを言っているのだと思う。

中英研研究部は、いち早くこのことに気付き、生徒の自己表現力の向上を目指す授業の改善に取り組み、Teacher Talkの研究に取り組んだ後、Student Talkの研究をはじめ、今年で4年目を迎えた。

今年度は、特に生徒の発話量だけでなく、発話の質についても研究を進めている。毎月一回定例部会を開き、各部員の授業を見ながら、活発な意見交換等を行っている。

本年度もまた、研究部の研究・実践が、多くの英語教師にとっての悩み解消への示唆を与えると同時に、東京都のみならず、広く全国の英語教師にとっても、活用される創造的にして先駆的なものであって欲しいと願っている。

研究部の歩み

東京都中学校英語教育研究会・研究部では、1976年（昭和51年）より下記のような研究を継続的に行ってきた。今年度の研究もこの延長線上にあるものである。

- 1976（昭和51）年度 「英語教師のニードとその資料源」
研究授業者：森永 誠（北区立赤羽台中学校）
指導講師：福田 大昭（都立教育研究所）
- 1977（昭和52）年度 「英語教師のニードとその資料源 その2」
「外来語と英語教育（1）」
- 小学校高学年教科書に現れた外来語リスト -
研究授業者：里見 光昭・宗政 剛郷（千代田区立麹町中学校）
指導講師：若林 俊輔（東京学芸大学）
- 1978（昭和53）年度 「外来語と英語教育（2）」
- 中学校英語教科書に現れた外来語リスト -
研究授業者：野中 清（江東区立深川第二中学校）
指導講師：若林 俊輔（東京学芸大学）
- 1979（昭和54）年度 「外来語と英語教育（3）」
- 外来語の強勢付加によっておこる変化 -
研究授業者：萩野 浩・須田 昌義（千代田区立一橋中学校）
指導講師：若林 俊輔（東京学芸大学）
- 1980（昭和55）年度 「外来語と英語教育（4）」
- 英語の意味別頻度と外来語・英語の意味とのかさなり -
研究授業者：後関 正明（墨田区立両国中学校）
指導講師：若林 俊輔（東京学芸大学）
- 1981（昭和56）年度 「外来語と英語教育（5）」
- フォニックス（つづり字と発音のルール） -
研究授業者：小林 幸子（千代田区立錬成中学校）
指導講師：若林 俊輔（東京学芸大学）
- 1982（昭和57）年度 「外来語と英語教育（6）」
- 選定語いについて -
研究授業者：小西 照明（足立区立伊興中学校）
指導講師：堀口 俊一（東京学芸大学）

- 1983 (昭和58) 年度 「語いと英語教育 (7) 」
 - 選定語い (2) ・発表語い (1) ・外来語と英語教育 (7) -
 研究授業者：長 勝彦 (江東区立第三亀戸中学校)
 指 導 講 師：若林 俊輔 (東京外国語大学)
- 1984 (昭和59) 年度 「語いと英語教育 (8) 」
 - 発表語い (2) 外来語と英語教育 (8) -
 研究授業者：蔦原 秀子 (新宿区立西戸山中学校)
 指 導 講 師：森住 衛 (大妻女子大学)
- 1985 (昭和60) 年度 「語いと英語教育 (9) 」
 - 「英語基本語い1000語」と「補足460語・外来語(英語)400語」
 Interim Report
 「外来語と英語教育 (9) 」
 言葉遊びをとり入れての指導実践例 -
 研究授業者：長 勝彦 (墨田区立両国中学校)
 指 導 講 師：若林 俊輔 (東京外国語大学)
- 1986 (昭和61) 年度 「語いと英語教育 (10) 」
 A. 英語・基本語い1000語・Appendices
 B. 授業の中でどのように語いをふやすか
 C. C L T (Communicative Language Teaching) について
 研究授業者：日臺 滋之・Ms. Yvonne Broekman (Australia)
 (新宿区立牛込第三中学校)
 指 導 講 師：隈部 直光 (大妻女子大学)
- 1987 (昭和62) 年度 「語いと英語教育 (11) 」
 A. 基本語いの定着化 - 授業の中でどのように語いをふやすか (Part 2) -
 (Bingo Game , Guess Work , Pair Work & Skit を行って)
 B. CLT(Communicative Language Teaching) と CF(Communicative Functions) について
 - 東京都公立中学校で使用されている 4 種類の教科書に現れる
 Functions (言語機能) / Forms(言語形式) の学年別 Function List -
 C. Assistant English Teacher に関するアンケート調査のまとめ
 - AET 導入の年数・採用方法・派遣状況・派遣時数・その他 -
 研究授業者：青木 弘子・Mr. Phillip Roberts (Australia)
 (新宿区立牛込第三中学校)
 指 導 講 師：塩澤 利雄 (宇都宮大学)

1988 (昭和63) 年度 「語いと英語教育 (12)」

A. NHK ラジオ続基礎英語 (1986.4 ~ 1987.3) の dialogs に現れる
伝達機能とその言語形式

B. 日常の授業で活用できる伝達機能とその言語形式

研究授業者: 福井 康真・Ms. Robarta Schudrick (U.S.A.) (千代田区立九段中学校)

指導講師: 萩野 浩 (聖徳短期大学)

1989 (平成元) 年度 「語いと英語教育 (13)」

CLT (Communicative Language Teaching) と CF (Communicative Functions) について
東京都公立中学校で使用されている 4 種類の教科書に現れる

Functions (言語機能) / 例文の List

研究授業者: 鶴田 峰子・太郎良 博 (大田区立南六郷中学校)

指導講師: 斎藤 誠毅 (神奈川大学)

1990 (平成2) 年度 「語いと英語教育 (14)」

A. 日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式 (続)
- 実情報にかかわる機能 -

B. 東京都公立中学校における英語教育実態調査報告

研究授業者: 山本 展子・Mr. Frank Berberich (U.K.)

(江東区立深川第七中学校)

指導講師: 島岡 丘 (筑波大学)

1991 (平成3) 年度 「語いと英語教育 (15)」

日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式 (続々)

- 意志・感情にかかわる機能の言語形式の Register について -

研究授業者: 二宮 正男 (狛江市立狛江第一中学校)

指導講師: 青木 昭六 (愛知学院大学)

1992 (平成4) 年度 「語いと英語教育 (16)」

A. Teacher Talk (1)

B. 日常の授業で活用できる言語機能とその言語形式

- 意志・感情にかかわる機能の言語形式の Register に対する Native
Speaker の Comments -

研究授業者: 北原 延晃 (杉並区立和田中学校)

指導講師: 上田 明子 (津田塾女子大学)

1993 (平成5) 年度 第17回関東甲信地区中学校英語教育研究協議会東京大会

Teacher Talk (1)

研究授業者: 杉本 薫 (墨田区立両国中学校)

指導講師: 若林 俊輔 (東京外国語大学)

- 1993 (平成5)年度 「語いと英語教育(17)」
Teacher Talk (2)
研究授業者：重松 靖(府中市立第七中学校)
指導講師：金谷 憲(東京学芸大学)
- 1994 (平成6)年度 「語いと英語教育(18)」
Teacher Talk (3)
研究授業者：三浦 邦彦(足立区立第三中学校)
指導講師：森永 誠(聖徳大学短期大学部)
- 1995 (平成7)年度 「語いと英語教育(19)」
Teacher Talk (4)
研究授業者：石井 亨(江東区立南砂中学校)・Mr. John Walding(U.K.)
指導講師：佐野 正之(横浜国立大学)
- 1996 (平成8)年度 「語いと英語教育(20)」
研究部の歩みと
「語いと英語教育」第1集～19集のダイジェスト版
研究授業者：長 勝彦(墨田区立両国中学校)
- 1997 (平成9)年度 「語いと英語教育(21)」
Teacher Talk (5)
Student Talk (1)
研究授業者：太田 洋(東京学芸大学附属世田谷中学校)
指導講師：投野 由紀夫(東京学芸大学)
- 1998 (平成10)年度 「語いと英語教育(22)」
Student Talk (2)
研究授業者：原田 博子(江東区立深川第五中学校)
指導講師：和田 稔(明海大学)
- 1999 (平成11)年度 「語いと英語教育(23)」
Student Talk (3)
研究授業者：小柳 守生(葛飾区立亀有中学校)
指導講師：松本 青也(愛知淑徳大学)
- 2000 (平成12)年度 「語いと英語教育(24)」
Student Talk (4)
研究授業者：阿久津 仁史(文京区立第八中学校)
指導講師：緑川 日出子(昭和女子大学)

今年度の研究

Student Talk (4)

1 研究の概要

Student Talk の研究に取り組み始めて4年が経過した。昨年度は4部会形式で研究を行った。今年度は部会のあり方、全員で同じ視点で研究することの意義等について話し合い、「研究は日頃の授業から」という原点に立ち戻ることとした。

そこで、授業を公開する部員の学校で毎月の部会を開くことになった。そこでは昨年度の第3部会が取り上げた生徒の自由な発話や即興的な発話(unprepared / impromptu speech)について研究を深めることにした。本研究部では過去に指導した語い・表現が生徒の中で多くリサイクルされることが表現能力向上につながると考えた。そこでこれらの Student Talk を促す授業を実践し、それらがどのようにリサイクルされているのか可能な限り正確に拾うために言語活動中に部員が手分けして生徒の発話を記録し、後の研究部会で協議した。研究協議会では次の4点を中心に話し合い、記録を積み上げていった。

(1)個々の unprepared speech が発話された裏にはどんな指導があったのか。

(2)その質を高め、量を増やすのに効果的な指導法は何か。

(3)効果的でなかった指導の原因は何か。

(4)今後の課題は何か。

さらに毎月の部会で生徒の自由な発話を促す方法について担当を決め、ワークショップ形式で研修を行うことにした。

以下は今年度の授業者と学校名、研修担当者である。

	5月	6月	7月
授業者	石井 亨	伊地知 義信	原田 博子
学校名	江東区立 南砂中学校	豊島区立 西巣鴨中学校	江東区立 深川第五中学校
研修担当者		北原 延晃	山本 崇雄

	9月	10月	11月	12月
授業者	横山 牧子	本多 敏幸 (調査部)	阿久津 仁史	滝口 均
学校名	八王子市立 宮上中学校	江東区立 深川第八中学校	文京区立 第八中学校	新宿区立 牛込第一中学校
研修担当者	浜内 明	大貫 由季		

2 第1回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案5月

1. 日時：平成12年5月19日(金) 5校時 13:30～14:20
2. 授業者(学校名)：石井 亨(江東区立南砂中学校)
3. 学年,組,(人数)及び授業場所：2年B組(男子19人 女子15人 計34人)英語科教室にて
4. 単元名及び使用教科書：Unit 2 " Dinner with the Saitos " *Columbus English Course 2*
(光村図書)

5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容

(1) 今回の Student Talk のねらい

「一般動詞の過去形を主に使って英語で会話ができるようにする」ことをねらいにし、授業で指導・練習後、1学期末にJETとのSpeaking Testの予定を生徒に告げた。

生徒1人に2種類の内容のSpeaking Testを行うこととした。

(A)先生の英語の質問に答え会話を続けること。

(B)先生の話した英語を聞いてそれに関係する質問をして会話を続けること。

評価は上の(A)と(B)2種類を下の評価項目にそって5段階で評価×2=60点とした。

(A)先生の英語の質問に答え、会話を続ける。

先生の質問に答えられたか。(文の形で答えると高い評価)

過去形を正しく使えたか。(文の中で正しく過去形を使えると高い評価)

先生との会話が続いたか。(文の形で会話できると高い評価)

(B)先生の言った英語を聞いて、それに関係する質問をして会話を続ける。

先生の英語を聞きそれに関係する質問ができたか。(文の形で質問できると高い評価)

過去形を正しく使えたか。(文の中で正しく過去形を使えると高い評価)

先生との会話が続いたか。(文の形で会話できると高い評価)

(2) 都中英研・研究部授業研究5/19(金)までの Student Talk に関する指導内容

4月 Team Teaching で Did you ~? を導入、練習。規則動詞過去形、不規則動詞過去形の導入。

(不)規則動詞の文法的なまとめ(Text P.13)。不規則動詞活用表の説明(Text P.94)

Speaking Test について指導。

List of verbs(教科書から作成)で 動詞の意味の確認 Pair work で絵 過去形を言う練習。

5月 英語授業用グループ編成。

List of verbs で以下の指導を行った。

ア T：原形を言う S：過去形を言う。

イ Collocation(語と語の結びつき)と付属できる語句の確認。

(Ex.)cooked cooked dinner at 7:00 last Sunday .

ウ T：原形(文で)を言う S：過去形(文で)を言う Pairwork

エ T：過去形を言う(Ex.)went shopping S：疑問形で言う(Ex.)Did you go shopping?

オ疑問詞の練習。(Ex.)Where did you go? Pairwork

カ Pairwork Did you watch TV yesterday? から会話を始める。

(3)Peer Help(Collaboration)の導入。Peer Help とは4人グループで1ペアの会話を別のペアが聞いていて、会話に詰まったら助ける。会話の止まった所から再度始める。

6. 本時のねらい

(1)教科書 Unit 2 "Dinner with the Saitos "(P.8 ~ P.10)の概要をListening とReading でつかませる。

(2)過去形を使った会話が続けられるようにさせる。

7. 評価

(1)Listening と Reading を通して、必要な情報をつかめたか。

(2)過去形を使った会話が続いたか。

8. 指導過程

指導内容 (時間)	生徒の活動	教師の指導・援助	指導上の留意点
1. Greeting	挨拶する。	挨拶する。	
2. Bingo (5分)	単語をチェックする。 最初に1列揃った者は挙手。 揃った列の数を数える。	単語を読み上げる。 1列8個のうち7つ読み上げたら終える。	The 1st Bing と The highest Bingo の生徒に Sticker を与える。
3. Pre-listening & Pre-reading (5分)	近くの生徒と話し合う。 食べ物の名前を言う。	If you invite an American to dinner, what(Japanese)food will you cook?と板書。 近くの生徒と話し合うように言う。 意見を生徒から引き出す。	if と invite の意味を確認する。
4. Guessing (5分)	Worksheet に出ている人物から予想し記入する。	斉藤一家がアメリカ人を夕食に招待した。誰が何を料理したか。また誰の食べ物の好みかを予想させる。	Slow learner に援助する。
5. Listening (8分)	CD を聞き、自分の予想が当たっていたか確認する。	教科書 P.8 ~ P.10のCD を4回聞かせ、予想が当たっていたか確認させる。	予想が違ったら、直してよいことを知らせる。
6. Reading (7分)	CD と共に Unit 2 (P.8 ~ P.10)の本文を読む。 Unit 2(P.8 ~ P.10)を読み、確認する。 答えを確認する。	CD と共に Unit 2 (P.8 ~ P.10)の本文を読む。 Unit 2(P.8 ~ P.10)を読み、確認する。 答えを確認する。	CD と同時に読むことで Accoustic Image も作る。 間違いを訂正してよいことを知らせる。

7. Practice for Speaking Test (20分)	Did you ~? Where did you ~? などを言う練習をする。	List of verbs を使い、過去形の疑問文、疑問詞を練習させる。	
	質問に答える。	生徒の何人かに昨日のことについて"watch TV", "study", "read"を使ってたずねる。 "Sounds good", "Anything"を途中で導入する。	後の Pairwork の参考になるように。
	4人グループのうち1ペアから会話を始める。別のペアは会話を聞き、詰まった時に助ける。詰まった所から再度話し始める。	Peer Help の方法の確認。 "watch TV," "study," "read"を使って会話を始めるように指示する。	1ペアが終わったら交代する。
	Pair で会話を始める。	Peer Help での経験を Pairwork に生かすように指示する。	

9 . その後の授業改善について

- (1) 会話の内容が仮想や第三者のことについてもよいことを指導した。
- (2) 生徒に質問を考えさせるために、Speech "My Summer Vacation" (9月～10月)では、スピーチ後、2人を指名してスピーチに関する質問をさせ、また自主的に質問する機会も設けた。
- (3) 生徒に自分たちの発話を記録させ、生徒の発話をつかみ、その後の指導に生かした。
その際、生徒の言いたい英語を書く欄を設け、後で指導した。
- (4) Pair work を行い、Structure の定着を図ってみた。
- (5) 次のようなスピーキング・テストを2学期末に設定することとした。

<p>スピーキング・テスト (2000.11)</p> <p>ねらい(1)スピーキング・テストと練習を通して、未来を表す表現、不定詞を身につける。</p> <p>(2)会話を続ける方法を身につける。</p> <p>目標文型：will, be going to, 不定詞 = I want to ~ (to do), I would like to ~ (to do), I'm glad to hear it.</p> <p>方法(1)Speaking Test の前に、1枚トピックカードを引く。</p> <p>8 Topics：At the weekend Next week Next month Next year Winter vacation In the 3rd year In the future My dream</p> <p>(2)そのトピック・カードの話題で先生と会話を始める。</p> <p>創造的な答えも可。</p>
--

(3)会話の時間は1人2分。

評価規準(1)会話を続けようと積極的だったか。

(2)引いた Topic に関連する会話が続いたか。

(3)未来を表す表現、不定詞を正しく使えたか。

評価段階：上の評価規準(1)～(3)を10段階で評価×3項目×2倍=60点

5+, 5, 4+, 4, 3+, 3, 2+, 2, 1+, 1,

10. 生徒の発話記録

5/8(月) Vocabulary work(原形 過去形の Drill)の後で

S1がカードの絵を指して、S2が過去形で言う Drill

M	N
talk	talked(助けを出す) come home(助けを出す)
came home	
took a bath	
saw a movie	
went shopping	
called	went to bed(助けを出す)
went to bed	
walked	run(助けを出す)
ran	
drank	went shopping ran left home ate
12/18(Mon) Speaking Test にて	
Teacher	
Do you have any plans in the future?	N
You want to be a teacher.	I want to be a teacher.
What subject?	
Japanese teacher?	Japanese.
	Yes.

Why do you want to be a teacher?

I like studying

You like studying?

Yes.

Japanese?

Yes.

What school do you want to be a teacher?

Maybe

Maybe,

Minamisuna junior high school teacher.

Minamisuna junior high school teacher?

Yes.

O.K.

Do you have any plans in the future?

In the future? Yes.

I would like to go to the U.K.

U.K? Oh, that's so good.

Because I have never been to the U.K.yet.

Why did you go?

Do you want to go to a foreign country?

Yes.

What countries do you want to go to?

I'm going to go to Australia.

Why do you want to go?

I like koalas.

12 / 18(Mon) Speaking Test にて

Teacher

M

Next week

Do you have any plans for the next week?

Yes, I do.

Really?

I'm going to go to Kamakura.

Oh, who with?

Yes.

When are you going to go to?

With my friends

December 26th?

I'm going to go to December 26th.

Why do you want to go to Kamakura?

Take a trip.

Oh, I see. You like to take a trip.

How many times did you ever go to Kamakura?

How many times did you ever go to Kamakura?

Once, twice, 3 times?

How many times did you go to Kamakura?

No time?

Is it your first time to go to Kamakura?

Question, please.

Yes, I do.

I'm going to have a Xmas party.

With my family and with my brother's family.

What will I do?

At X mas party, we'll have a big dinner.

We'll give X mas presents to the children.

Maybe my wife and my brother's wife.

To my mother's house.

Yes.

I like,

"Ryoko " in English, how do you say ?

Take a trip.

I like take a trip .

Pardon?

Mm?

How do you mean?

Zero.

Yes.

Do you have any plans next week?

What plans?

Oh.

Who with?

What do you do?

Yes.

Who is cooking?

Where will you?

5月授業の協議会より

(1)授業者からの Student Talk に関する補足説明

効果的だったと思われる活動として、Collocation（語と語の結びつき）の指導や、生徒の言いたいことをその場で教えたことなどがあげられる。

(2)Student Talk に関する授業者との質疑応答

Q：「Peer Help(Collaboration)とは、どのような活動か。」

A：「ある pair の会話を別の pair が聞いていて、つまった時にその4人で会話の進め方を考えて、つまった所からやり直してみる活動である。」

Q：「どのようにグループ編成をしているのか。」

A：「お互いに協力し助け合えるようにするための英語授業用の編成。生徒の意見からグループリーダーを決め、一緒になりたいリーダーの所にメンバーが集まって男女別のグループを編成し、くじ引きで男女を一緒の班にする。一定期間を過ぎると新グループになる。」

Q：「この活動は今回で何度目か。」

A：「2回目なので、まだ慣れていない部分もある。」

Q：「Vocabulary list の指導はどのようにしているのか。」

A：「毎回の授業の中で、単語（原形から過去形へ） Collocation と副詞句 文へと段階を踏まえて指導している。」

（たとえば cook cooked cooked dinner at 7:00 last Sunday

I cooked dinner at 7:00 last Sunday.）

(3)Student Talk に関する指導への改善策・提案など

Peer Help が4人編成になっているが、4人だと気が緩むのではないか。

自分の事を言うのが本当のコミュニケーションかもしれないが、自分の事だと限界があるので、仮想のことや第三者の事でも良いのではないか。

モデル提示の際、生徒が答えるだけでなく、生徒に質問を考えさせることも大切ではないか。

How was it? Did you?などの指導も必要ではないか。

Short form から expand (When? When did you go shopping?)していても良いのではないか。

Wh-question については Pattern practice 的な練習を繰り返しておいても効果があるのではないか。

英語で言える所は英語で、詰まってしまった場合には日本語でも良いというアドバイスを与えておいた方が良いのではないか。

現段階では、2分間会話を持続させることを目安としているが、2分を越えた時にどのように今の活動を発展させていくのか考えておくことも必要ではないか。

会話における聞き手の response(That's good. Really?など)を育てることも重要ではないか。

2 第2回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案6月

1. 日時：平成12年6月13日(火)
2. 授業者(学校名)：伊地知 義信(豊島区立西巣鴨中学校)
3. 学年・組・(人数)及び授業場所：3年3組(男子15人 女子14人 計29人)視聴覚室にて
4. 単元名及び使用教科書：Lesson3 "Houston:Space Center-USA" *Total English Book 3*
(学校図書)

5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容

(1) 今回の Student Talk のねらい

「現在完了の経験用法を使って unprepared な会話ができるようにする」ことをねらいにした。
1 minute の talk を原則とし、topic を決めたり、初めの文を決めたりして、数回にわたって、指導した。今回の授業の後も継続した。

(2) 都中英研・研究部授業研究6/13(火)までの Student Talk に関する指導内容

Topic を'Sport'とし、1 minute talk を行った。その後数ペアの例を提示した。

Topic を'Music'とし、1 minute talk を行った。その後数ペアの例を提示した。

Have you ever been to ~? で始めることだけ決め、1 minute talk を行い、実例を紹介した。

Have you ever been to ~? で始めることだけきめて、2 minutes talk を行った。

1 minute を2 minutes にした理由は、1 minute では時間が不足したと考えたため。

6. 本時のねらい

- (1) 前時の復習 (SVO + how to ~) をする。
- (2) できるだけ生徒の(現在完了を使った) 発話を引き出す。
- (3) SVO C の導入と言語活動を行う。

7. 評価

- (1) 現在完了形を使った会話を続けることができたか。
- (2) 生徒が発話する機会を多く持てたか。

8. 指導過程

指導過程	教師の活動	生徒の活動	評価の観点	留意点
0. ビデオ		ビデオを見ながら 授業準備		開始時間 厳守
1. あいさつ (1)	英語で あいさつをする	英語であいさつを する	元気よくでき たか	
2. Dictation (2)	教科書の出題 範囲から英文を読む	教師の英語を聞き、 最後の1文を用紙に 記入する	集中して聞け たか	どこで止まる かわからない ことで集中さ せる

3. Bingo (3)	Bingo の単語を リズム的に読みあげる	英語を聞き取り、 チェックしてライン ができるごとに Bingo! と大きな声で 言う	読み上げられ る単語がわ かったか	初めに 1 本で きた場合と数 多くできた合 はスティッカーを もらう
5. Song (2)	ビデオを見せる	ビデオを見ながら 英語の歌を歌う	リズムカルに できたか	英語のリズム に慣れるのが 目的
6. Pair -Work (2)	対話のモデルを示す	音読後ペアワークを 行う 英語で質問して 相手がチェックした語句 を当てる	楽しくできた か 英文を正しく 言えたか	アメリカ旅行 の地図を当て た数 + 1 だけ 塗っていく
7. 2-minutes chat (2)	2 分間継続した会話を 行わせる 会話の出だしは Have you ever been to ~ ? I have been to ~ . 机間指導をする	つながりのことばや echo (対話相手が 言ったことの繰り返 し) をうまく使って 2 分間会話を継続す る		迷っているよ りもまず話す ことの方を重 視
8. Review Reading (10)	1 Flash cards を用い て前時の単語を発 音させる 2 CD を用いて 音読練習させる 3 段階をふまえて 練習する ・Repeat after JT ・Paced Reading ・Buzz Reading ・Shadowing ・Response Recitation	1 Flash cards を見て 前時の単語を大きな 声で発音する 2 CD の後について 本文を読む 3 本文の音読練習	リズムよく発 音練習が行え ているか 英文の抑揚、 速さに注意し て読んでいる か ステップを踏 んで音読が上 達しているか	易から難へ段 階をつけて音 読させる 様々な手法を 使って音読練 習をさせる

10. New Material (10)	SVOC の文の提示 Guess Work や Nickname から SVOC の文の例示へ もっていく	英語で意味をつかむ 教師の質問に答えた り英文を繰り返す	例文の意味が 理解できるか	
11. 4-corners Activity (16)	SVOC の入った 英文を使って言語活 動を促す	SVOC の含まれた 文を使って言語活動 を行う	意味がわかっ て使用してい るか	日本語を使わ ないように気 をつける
12. まとめ (2)	今日やったことの まとめを話す 英語であいさつをす る	今日やったことを 確認する 英語であいさつをす る	気持ちを込め てあいさつで きたか	

9 . その後の授業改善

- (1) 2分間というのは少し長かったので，1分間の talk にもどした。
- (2) 初めの1分間は日本語で行い，その後の1分間を英語で行うことも試みた。日本語で初めに行うと，かなり話がスムーズに進んだ。
- (3) Student Talk ということで，少し身構えて考え過ぎたところがあったが，もっと簡単に考えることにした。具体的には Story-telling などから取り組んだり，教科書をベースにもっと発話を促すようにした。

10 . 生徒の発話記録

M

Do you have stationery?

What color?

Y

I want to visit Okinawa.

I have visited Hiroshima.

Hiroshima is very nice, I think.

I saw Daimonji-yaki in Kyoto.

Have you ever been to Hokkaido?

I went there with my family.

Very good.

O

What is her first name?

How do you spell it?

What do her friends call her?

What does she want to know?

OK. Thank you.

His friends call him Bill. B-I-L-L.

He calls it Big.

He wants to know kanji.

His name is William.

His friends call him Bill.

Yes, he has.

He has frog.

He calls it Big.

Because his pet is very big eyes.

He wants to know kanji.

What is her first name?

What do friends call her?

I

I have been to Kyoto.

I want to visit Hokkaido.

Oh, you have been to Odaiba.

Oh, great!

I have been to Atami before.

Do you have chalk?

What is ga-byo in English?

Her name is Caroline.

They call her Carol.

What does he call it?

What does he want to know?

U

Tokyo Tower is very beautiful.

Really?

6月授業の協議会より

(1)授業者からの Student Talk 指導に関する補足説明

- ・迷うことよりもとにかく話すことが大切であると指導している。
- ・言いたいことを既習事項に結びつけて話させるように指導している。
- ・とぎらせないように、つなぎのことばや echo を入れさせるようにしている。
- ・ことばのやりとりによって話題を発展させていくことが大切である。

(2)Student Talk 指導に関する授業者との質疑応答(Q&A)

Q : Dictation , Bingo, Song と盛りだくさんだが、こんなにやる必要があるのか。

A : Dictation は早く教室に来させるためと集中させるために必要。Bingo と song は student talk の基礎となる語いや表現の input として欠かせない活動であると同時に生徒が大好きな活動であるので必要。

Q : なぜ pairwork と2-minutes chat を同じ"Have you ever been to ~"で行ったのか。

A : pairwork で前時のことを復習し、2-minutes chat を円滑に行わせるためである。

Q : pair の組み方はどうしているか。

A : 特別の活動でない場合は、となり同士が原則。

Q : pairwork でアメリカの地図はどう使っているか。

A : 相手が選んだところを1つ当てるごとにアメリカの州を1つ塗ることになっている。

(3)Student Talk に関する指導への改善策・提案など(参観者と授業者自身も含む)

- ・2-minute chat ではペアによってかなり、できが違っていた。話をどんどん発展させたところとほとんど聞き取れないような声で、ボソボソと話すところがある。
- ・今日の Student Talk 全般について "I want to go there, too.", "I saw ~", "When you go to ~, " "Why did you go there?"などの既習の表現が student talk として出てきており、これまでの授業の中で生徒が使ってきたことによる定着が図られている。
- ・会話が続くところはお互いに知っているところに話題を持ってきているので、お互いの話を発展させやすかった。
- ・4 corners activity では司会をきちんと自分たちで決めて進められたグループともじもじしてなかなか始まらなかったグループがあったので、きちんと役割分担をさせた方がよかったのではないか。
- ・4 corners activity について、今回が初めてであるのに対して、"What do you call him?"のような疑問詞を使った疑問文まで1回の授業で持っていくのは苦しい。せめて2回くらいに分けた方がよい。
- ・4 corners activity について、聞くことが多すぎて時間がかかってしまうので、もっと聞く内容をしぼり込んでおくほうがよかった。

4 第1回ワークショップ

1 町田市立本町田中学校 北原延晃

2 活動名

ペアリーディングから即興会話へ

3 授業での位置づけ

前時の復習で教科書本文を音読練習した後

4 必要時間

5分～8分

5 準備

前時に学習した新語と本文の音読練習を復習としてすませしておく

6 手順

(1)自由にペアを組ませて教科書を見ながら pair reading をさせる。

dialog でないページは speaker と listener に分かれて speaker が本文を読むのを listener は本を見ないで聞き、U-ha, Really?, You did?, Excuse me?, Sorry?, (I beg your) Pardon?, What?, When?, Where?, Why?, Who?, How?, That's great!, Good (for you)!, などを使って対話をする。

パートナーをどんどん変えて対話を続ける。また必ず speaker と listener の両方のパートを担当するように指示する。1～2分経ったら次の指示を出す。

(2)Speakers, try not to look at the textbook .

さらに1～2分経ったら次の指示を出す。

(3)This time throw your books away . Put your books on your desk . And use gestures . Facial expressions are also important .

さらに1～2分経ったら次の指示を出す。

(4)This time change some parts with your own words . You can look at the book if you like . Use as many expressions and vocabulary you learned so far as you can . 即興会話の部分

(5)全員を席につかせて。

T : How many flowers do you have on the page? One? Two? Three?

S : (Answer T by raising their hands .)

(一人と会話をしたら花マルをページにつけるように指示してある)

(6)一人の生徒の発話を全員に広める。

T : What did you say after the first sentence?

S1 : "Are you sure?"

T : Good .

S2 : "I can't believe it!"

T : Thank you .

7 効果

(1)家での音読練習が足りているかどうか、生徒自身で判断できる。

(2)既習表現・既習語いのリサイクルをする場面を設定できる。

(3)教科書ベースになるので即興部分を差し込みやすい。

- (4) スキットにすぐつなげることができる。
- (5) 自分自身のことだけでなく、架空の会話にすることもできるので、生徒は照れないで会話を行うことができる。(2年生という発達段階を考慮して)
- (6) 自分のことを表現しようとする、文型・語いが未習のため、話が続かない場合がある。架空の人物になって行くと既習の文型・語いを使え、自由に話を発展できる。
- (7) 教科書のトピックを使ってスピーキング能力の向上を図ることができる。(別教材を使う必要がない)
- (8) ストーリー性のある教科書本文を使っているため、Student Talk の discourse 作りのモデルになる。
- (9) 生徒同士でいろいろな表現を学び教えあうことができる。

8 課題

- (1) 慣れないうちは listener は聞いてばかりいる。
- (2) 対応が Really? などワンパターンに陥ってしまうことがある。
- (3) トピックによっては内容が難しく、背景知識の不足などから広がり期待できない。

9 データの一例

教科書本文 (New Crown Lesson 5-2)

Why do humans cut down the forests?

Are there any reasons for it?

Yes, there are.

Humans want wood, paper, and land.

They are cutting down the forests at 40 hectares a minute.

There are many problems.

For example, many animals and plants are dying.

Forests are becoming deserts.

実際の Student Talk

I don't know./Well.../It's difficult./

Yes, they are. / No, there aren't./Reasons?

I think so too./What are they?

Sorry?/Wood, paper and?

Really?/Are they?/They are?/40 hectares?/That's too bad.

Yes./

Oh, I can't believe it./That's too bad.

That's too bad./I can't believe it.

音読から即興会話へ

本町田中 北原延晃

1 そもそも発想のもと

前時で教科書の intensive reading (音読) を行い宿題として 5つ以上 (一つは5回、したがって25回以上) 音読してくることを科している。次時に review reading として pair reading をさせるが、教科書のページによっては対話ではないページがある。そのページをどうやって pair reading させようかという発想から生まれた。

2 手順

前時

新出文型、新出語彙の指導が終わった後。本文内容理解がすんだ後。

教師の後について1文ずつ読む。1～3回

Paced Reading 2～3回 生徒は開本

Shadowing 4回 生徒は開本 閉本

1. 教師がわざと一部変えて読む。
2. 教師は普通に読む。
3. 生徒はなるべく教科書を見ないで読む。
4. 生徒は教科書を閉じて、教師のジェスチャーを見ながら言う。

Buzz Reading 1つを書くまで(5回)

宿題として 5つ以上をつけてくる。(25回以上読んでくる)

5つの根拠・・・英語のできる生徒がこれだけ音読すると教科書がほぼ暗唱できるようになる。

次時

ウォームアップの後。

教科書の該当ページを開かせて立たせる。How many stars do you have?と聞いて Ten or more? Nine? Eight? と順次聞いていき、生徒を座らせる。

新出語の練習(復習)

flash cards の裏(日本語訳が書いてある)を見せて英語を言わせる。

本文の chorus reading

教師の後について全員で音読する。

Pair Reading

上の7番参照

5 第3回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案7月

1. 日時：平成12年7月11日(火)
2. 授業者(学校名)：原田 博子(江東区立深川第五中学校)
3. 学年、組、(人数)及び授業場所：3年B組(男子17人 女子18名 計35名)普通教室
4. 単元名及び使用教科書：Unit3 Mika's Speech, *Columbus English Course 3* (光村図書)
5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容
 継続した自発的な会話がなかなかできないため、身近な話題であれば話しやすくなるであろうと考えた。そこで、What did you do yesterday (last night)? What's your hobby?などをテーマに選び、そのテーマを広げられるようなクエスチョン(What program did you watch? What else did you do? Where do you go shopping?など)を与えて、ペアや4人一組で会話させた。
6. 本時のねらい
 - ・本時の話題 What did you do last night?に合わせたカードゲームを生かす。4人グループで、2分間の会話ができるようにする。
 - ・テープに録音された ALT が考える英語学習の意義を理解させ、生徒自身に、自分にとっての英語学習の意義を考えさせ、それを書かせる。
7. 評価
 - ・What did you do last night?の話題について、4人グループで、2分間会話を続けることができたか。
 - ・ALT が考えている英語学習の意義を参考にして、自分自身の考えを整理して書くことができたか。
8. 指導過程

指導内容 (時間)	生徒の活動	教師の指導・援助	指導上の留意点
1.あいさつ	あいさつする	あいさつする	
2.ビンゴ(1)	英語を聞き取りチェックする	単語を15個読み上げる	
3.カードゲーム(10)	4人一組になりカードゲームをする。その時、自分自身の答えを加える。	4人一組にして、Q&Aの書かれているカードを配りQとAを合わせるゲームを行わせる。	スピーディに行いかつ、自分自身の答えを付け加えているか。
4.2minutes talk (4)	グループで協力して、4人の会話を継続させる。	2分間の継続した会話を4人一組で行わせる。	会話を継続させようとして、グループ内で助け合っているか。
5.Review Reading(5)	標準的な英語とコックニーを聞き比べて、その違いに気づく。	標準的な英語とコックニーの英語を聞かせて、その違いに気づかせる。	集中して聞いているか。 しっかり声を出

	内容が伝わるように、 正確に音読する。	Repeat after JT Buzz reading	して音読してい るか。
6. Reading of p.20 (10)	リスニングポイントに したがって聞く。 New words を発音する。 音読練習。	リスニングポイントを与えて 聞かせ、内容の概要をつかま せる。 New words を発音させる。 Repeat after JT/CD. Buzz reading リスニングポイントの確認と 本文のアンダーライン	・リスニングポ イントにそつて 内容を理解しよ うとして、聞い ているか。
7.ALT のコメ ントを聞いて 「英語」につ いて意見を書 く (14)	ALT のコメントを聞い て、分つたことをメモす る。 英語を聞いてワークシ ートの空欄に記入する。 ALT のコメントを内容 を考えながら音読する。 ALT や教科書のコメン トを参考にして、意見を 書く。発表する	・ワークシートに沿つて、聞 き取れた内容をメモさせる。 ・ALT のコメントを聞かせ 空欄になっている部分に英語 を入れさせる。 ・ALT のコメントを音読さ せる。 ・ALT や教科書のコメント を参考にして、英語を学ぶこ とについての自分の意見を書 かせ、発表させる。	英語を学ぶこと に関する ALT のコメントを集 中して聞してい るか。
8.あいさつ	あいさつする	・あいさつする。	

9 . その後の授業改善について

これまでの指導では、生徒全体に対して自発的な発話能力を十分に育てることができなかったため、生徒にアンケートをとり、何が原因で英語が話せないかを探つた。アンケートの結果から、生徒は話せるようになりたいと思っているが、「話し方がわからない、すぐに英語が出てこない、文が作れない、単語がわからない」といった根本的な部分で困難を感じていることが分つた。そこで、次のように初歩的な段階から目標をたて、それにしたがつてペアを練習をする際の単位として、指導を始めた。毎回3回はペアを変えて練習することにした。

到達目標 1 : 授業中に与えられた話題について、生徒は少なくとも2文以上ノートに書き書いたものは見ずに相手に伝える。聞き手は相手から聞いたことを繰り返すことによって、内容を確認する。聞いた内容に対しては、相槌(Really? Wow!など)や簡単な感想 (That's great .That's too bad. Sounds great!など) を述べる。今度は自分が書いた英語を相手に伝え、同様に確認し、相槌や感想を述べることができる。

到達目標 2 : その場で与えられた話題について、話す内容を考える時間を少し与えてから会話を始める。目標 2 では、書くことはせず、少なくとも 3 文は相手に伝える。聞き手は前回の目標であったエコーや相槌、感想を伝え、話し手は会話のつなぎ言葉(Well, Um, Ah, . . . Let me see. など)を適宜使い、相手に伝える。

到達目標 3 : 上と同じだが、ここでは聞き手はエコー、相槌、感想のほかに質問をして、新しい情報を求めることができる。話し手は、できる限りプラスワンで答え、会話を少なくとも 1 分間は続けることができる。

最終目標 : 到達目標 1 ~ 3 で身につけた事を必要に応じて使いながら、意味のある会話を少なくとも 1 分間は ALT と続けることができる。現在(2 学期末)は到達目標 3 を行っている。

10 . 生徒の発話記録

研究授業での発話は、事前に生徒に提示した質問を中心にした会話になってしまい、生徒が話す内容を逆に制限してしまった。

次に示す発話は授業改善で見られた生徒の発話の変化である。

[授業改善前の会話 (1)]

A: What's your hobby?

B: えと I hobby is listen to music .

A: Oh, um I'm hobby is listen to music and sleeping .

B: Oh, me ,too . (この間長い沈黙)

A: Do you like listen to music?

B: Yes .

A: What listen to music?

B: I favorite music .

A: Ah V6 member um like favorite member . (ここで 1 分)

[上と同じ生徒の到達目標 1 終了後の会話]

A: What's your favorite season?

B: My favorite season is summer .

A: Oh, your favorite season is summer?

B: Yes .

A: I like swimming .

B: Oh, me , too .

A: Oh, what's your favorite season?

B: My favorite season is spring .

A: Oh, really? Do you you like season spring?

B: Yes . Because spring is warm .

A: Oh, I like flower? (Do you like flower? のつもりで聞いている)

B: Yes . How about you?

A: Oh, me , too . (この次に何を言おうか考えているうちに 1 分がたつ)

[授業改善前の会話 (2)]

A: What did you do yesterday?

B: I went swimming.

A: What kind of swim?

B: Butterfly, seoyogi, hiraoyogi, crawl.

A: How long did you swimming?

B: One hour.

A: Yesterday is swimming test I swim hiraoyogi. (かなり沈黙が続く) Hiraoyogi
(ここで1分たつ)

[上と同じ生徒の到達目標1終了後の会話]

A: What's your favorite season?

B: My favorite season is winter.

A: Oh, your favorite season is winter.

B: Yes. How about you?

A: My favorite season in spring and fall. Why?

B: Because spring is my birthday. Ah fall ah many, many delicious food. For example,
kaki, nashi, sanma. When your birthday?

A: My birthday January sixteen. (ここで1分たつ)

B: Oh, winter season. My parents winter season birthday.

7月授業の協議会より

(1) 授業者から Student Talk 指導に関する補足説明

(2) Student Talk 指導に関する指導への改善策・提案

topic 選びに工夫がいる。(生徒に興味がある topic でないと)

2分間話して良かったなと生徒に思わせる工夫

topic を提示する場合には、その topic に関する props があると良いのではないかな。

例 TV番組表を配って、TVについて会話する。絵を使って会話する。topic に対する自分のものを持ってこさせる。

生徒の言いたいことを拾い上げる方法が必要ではないかな。

例 生徒が英語で言いたい、かつ日本語を書き留める紙を常に英語科教室に置いておき、それをJET、AETが英語で書いておく。他の生徒も見ることができるようしておく。後でlistにまとめる。

各 topic でよく使われる文型があるのではないかな。

6 第2回ワークショップ

1 大田区立御園中学校 山本 崇雄

2 活動名 Picture Relay Game

ある1つのテーマ(「顔」、「昨日の日記」など)にしたがって教師の言う英語を絵で表現し、リレー形式で数人に絵をまわし、完成させ、最後にその絵について英語で話していく活動。

3 授業での位置付け

ウォームアップや復習として

4 必要時間

10分~25分

5 準備

前時に学習した言語材料を口頭で練習する。

6 手順

(1)教師に言われたテーマを記入する。テーマを理解する。

テーマの例: 顔、私の部屋、ケビンの経験、昨日の日記 など

(2)教師の言う英語を表す絵を描く。欄外の()に自分の名前を書く。

時間は20秒で区切り、凝った絵は描かせない。

例) T: Listen to me carefully. I went to the library yesterday.

S: 図書館にいるような絵を描く。

(3)教師の "Switch papers!" の声で友達と絵を交換する。

(1)交換するときその絵を表す英語を必ず言う。受け取るほうは "Good picture!" など簡単な感想などを言う。

(2)欄外の()に自分の名前を記入する。

(4)教師の言う英語を2のように描いて絵を加えていく。

例) T: Next I want to talk about my friends. Ken read an English book.

S: 英語の本を読んでいる男の子の絵を加える。

(5)以上の手順を繰り返し4~6の絵が描かれているようにする。

(6)最初の名前が書いてある人に絵を返す。

(7) Speaking

ペアを作り、完成した絵を元に "Echo Like Question"や"Wh-Question"などで話を膨らませながら会話をしていく。会話は想像でどんどん膨らませてよい。

例) 昨日の日記

S1: Look at this picture. I went to the library yesterday.

S2: Oh. You went to the library? I went to the library too.

S1: Really? What book did you read?

S2: I didn't read a book.

S1: What did you do?

S2: I studied with my friends.

(7) Writing

完成した絵を表す英語を書いてみる。

7 効果

- (1) 既習の言語材料を意識的に復習させることができる。
- (2) 初期の段階では絵を交換するといったクラスワークが気軽にでき、ペアワークなどの活動の基礎作りができる。
- (3) 絵を描くということで、視覚的に場面をよく理解して発話できる。
- (4) 架空の世界で話を膨らませられるので気楽に英語が出るようになる。
- (5) 話を膨らませることにより、会話の継続が容易になる。
- (6) Speaking や Writing にもつなげることができ活動の時間を調整しやすい。

8 課題

- (1) 絵が上手に描けない生徒へ配慮する。
人間は線画でもよいし、漫画的でもいい。絵のうまさを評価するのでないことを初めに強調しておく。
- (2) 絵に時間をかけてしまう場合がある。
絵を描く時間を厳密に制限する。
- (3) ルール作りをしっかりとしないと、お絵かきの時間になってしまう。
- (4) 会話の膨らませ方を積み重ねて指導していかないとワンパターンの会話になってしまう。

9 データ

例) ケビンの経験 (自分自身の経験に話題を転換している)

S1: Look at this picture. This is Kevin. Kevin has eaten natto.

S2: I see. Do you like natto?

S1: No, I don't. How about you?

S2: I like natto. I eat natto every morning.

S1: Look at this picture. Kevin has been to Kyoto. Have you ever been to Kyoto?

S2: Yes, I have.

例) 昨日の日記 (架空の世界で物語を作っている)

S1: I went to a park yesterday.

S2: What did you do?

S1: I played baseball with my friends.

S2: Did you enjoy baseball?

S1: Yes. It was exciting.

And I ate *bento* there. I ate sandwiches. Do you like sandwiches?

Picture Relay Game 作品例 3年生 「ケビンの経験」

作品を添付してください。

7 第4回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案9月

1. 日時 : 平成12年9月12日 (火)
2. 授業者 : 横山 牧子 (八王子市立宮上中学校)
3. 学年、組、(人数)及び授業場所 : 2年1組(男子 17人 女子 20人 計37人)
英語科教室にて
4. 単元名及び使用教科書 Lesson 5 "Rain Forests" *New Crown English Series 2*
5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容
「英文を聞いた後、絵を描きその絵についてできるだけ会話する」ことをねらいにし、
ペアで会話する練習を継続的に行う。
一学期始めから、授業の warm-up として、Casual Conversation を意図的にとりいれている。
7月より、絵を取り入れた会話練習を始める。
6. 本時のねらい
(1) There is / There are の使い方を理解する。
(2) 描かせた絵を使ってなるべく会話を続けるようにする。
7. 評価
(1) ペアワークなどを通じて There is/ There are ~ の文を理解できたか。
(2) 会話を続けることができたか。
8. 指導過程

指導内容	生徒の活動	教師の活動	評価の観点
1. Greetings Warm-up	挨拶をする。 天候や日付を答える。	英語の授業の雰囲気をつくる。	元気よく答えているか。
2. Review Reading	前回学習した箇所を音読する。 コーラス からバズへ	英文のリズムに気をつけて読むようにさせる。	リズムを意識して大きな声で読んでいるか。
3. Introduction	ゲス・ワークに答える。 ペアワークを行う。 ペアワークシートから、練習し、まとめを書く。 新出単語の発音をする。	There is を使って、ゲスワークを行う。 ペア・ワークの指示をする。 新出の英文を理解できるようにする。 フラッシュカードを使い、効果的に新出単語の読み方を教える。	意欲的に参加しようとしているか。 積極的に発音しているか。
4. 2/ 3 minutes talk	英文を聞いた後、絵を描く。(1分)	英文を読む。 I had a gorgeous dinner yesterday. I will have a birthday Present tomorrow. I found something on the road.	積極的な態度で参加しているか。

	互いの絵についてなるべく英語を使って会話する。(2, 3分) (同じ事を2回行う)	I was so sad yesterday. I will go to an interesting place next Sunday. 会話中に、なるべく英語を使うようにさせる。 あいづちなどをなるべく入れて会話するように指示する。	
5. Consolidation	上手く続いた方の会話をプリントに書く。 自己評価をする。	落ち着いて書けるような雰囲気をつくる。	集中して書いているか。
6. Greetings	挨拶する。	挨拶する。	元気よく

9 . その後の授業改善について

研究協議でのアドバイスを受けて、いくつかの改善を行った。

- (1) 授業の最初の、casual conversation を充実させるように心掛けた。
- (2) 最初に教師が状況を英語で説明し、それに対してどのような応答をしたらよいか考える時間をつくった。

(例) (教師の呼びかけ) Next Tuesday you are going to have an English Exam.
So, I must make it tomorrow.

(生徒の考えた一言) Good luck!
Please tell me the answers.
Do your best.
Oh, my God!
Don't make the exam!

- (3) 最初の英文を考えて、その後の会話を続けるような練習をしている。

Q: What did you do last night?
What did you have for supper last night?
What are you going to do tomorrow?
What food do you like?
What is your favorite subject?

10 . 生徒の発話記録

研究授業時のもの

I had a gorgeous dinner yesterday. について

- (1) A: What's this?
B: Hamburger?
A: Yes! Me too.
- (2) A: Did you have a gorgeous dinner yesterday?
B: Steak!
A: I see. I had Osushi yesterday. おいしかった。Very very yummy.

9月授業の協議会より

(1)授業者からの Student Talk 指導に関する補足説明

各自が教師より聞いた英文を元に用紙に絵を描き、その後その絵について2分間 Free Talk を行うもの(前回の山本先生の Picture Relay Game がベース)。会話の補助プリント(「会話に使える効果的な言いまわし」)も使用。言いたいことを言えるようにするために、今後 5W + 1H の効果的な使い方等を指導していく。

(2)Student Talk 指導に関する授業者との質疑応答

Q:「この活動で生徒に期待していたことは何か。」

A:「Q-Aの繰り返しだけでなく、あいづちなどで会話を続ける工夫をさせたい。」

Q:「まとめて会話を思い出させて英文を書かせた意義は何か」

A:「子どもたちが話している内容を知るため。」

(3)Student Talk に関する指導への改善策・提案など

- ・描かせた5つの絵につながりがない。また、絵を描く時間に比べて、会話の時間が少なかった。絵の数を減らして、会話の時間を増やしてはどうか。
- ・インプットされていない表現は使えない。教科書で既出の内容は意外と使えない(難しい)ことも多いので、前時またはその日に学習した表現を使うとよい。
- ・プラス1 dialogue; 本文の途中や最後に1文付け加える活動もやってみてはどうか。
- ・会話の補助プリントのバージョンアップも必要。
例)覚えたものは消す、半分消す、語数のみ記す、など

8 第3回ワークショップ

1 大田区立東調布中学校 溪内 明

2 活動名

Story Reproducing

3 授業での位置づけ

Oral introduction/interaction を終え、教科書を音読した後のまとめ

4 必要時間

10分~15分

5 準備

- ・Oral introduction/interaction で、本文の内容、語句や文を input する。特に後の story reproducing で言う文はていねいに口頭練習を行う。
- ・教科書の音読練習をする。
- ・会話体の本文はモノローグの形に言い換える。

6 手順

(1)Oral introduction/interaction の時に、後の reproducing で言わせる文や語句を口頭練習する。

(2)教科書の音読練習の後、黒板に貼った絵の内容(=教科書の1セクションの内容)を、英語で説明する練習をする。

- ・黒板の絵や語句を見ながら教師の後について練習する
- ・黒板の絵や語句、教師が出すヒント等をきっかけにして練習をする。
(教師とQ & Aをしながら進めてもよい)
- ・黒板の絵と同じ絵を印刷したハンドアウトを使って、ペアで練習する。
(ペアの相手に対して説明をする 聞き手は適当なあいづちをうつ)
- ・全員の前で、黒板の絵や語句を指し示しながら、クラス全員の前で説明する。
絵1~2枚分から始め、最終的にはストーリー全体を説明できる段階にもっていく。
(必要に応じて、教師が生徒にきっかけを出したり、質問をしながら進める。)
- ・ストーリーを説明する中で、オリジナルの文を1~2文つけ加える。

7 効果(Student Talk を質・量ともはどう増やしたか。他にそれ以外の効果等)

- (1)教科書に書かれている内容を口頭で発表するので、音読や暗誦が目的化する。
- (2)内容がよくわかったストーリーなので、安心して英語が言える。
- (3)スピーチ発表の練習になる。
- (4)教科書で使われている英語をくり返し口頭練習するので、スピーチやshow&tell等の活動で、それらの英語を使えるようになる。
- (5)セクションのまとめ・復習で行う意外に、oral introductionの直後(教科書を開く前)に行う方法もある。

8 課題

- (1)教科書の暗誦に終始して、生徒が自分の言いたいことを英語で言う機会が乏しい。
絵の1枚を白紙にして、その部分を生徒にオリジナルの文を作らせる方法もある。
- (2)前に出て発表する時、黒板の方を見ながら発表する生徒がいるので、自信を持って言えるように、Oral Introductionの時の個別の口頭練習、教科書本文の音読をしっかり指導する必要がある。
- (3)ペアで練習する時、聞き手があいづちをうたずに、黙って聞いていることが多い。
会話のつなぎ言葉(filler)を段階的に指導する必要がある。
- (4)教科書の課やセクションによっては、story reproducingに適さないものもある。
- (5)時間の点から、story-reproducingを毎回の授業で行うのではなく、1~2課を学習する間に1回くらいで行っているが、継続性に欠けるといった問題もあるのではないかと。

9 データ

(教科書本文)

Meg: Did you enjoy your vacation?

Kazuo: Yes. I visited my aunt.

I stayed at her house in Shizuoka.

Mika: Tell us about your time there, Kazuo.

Kazuo: We walked in the forest and cooked outside.

And then we watched the stars at night.

TOTAL ENGLISH 2 (学校図書) Lesson 1 "Spring Vacation"

Story-Reproducing で言わせる文(数字は絵の番号)

Kazuo enjoyed his spring vacation . He visited his aunt .

He stayed at his aunt's house in Shizuoka .

They walked in the forest and cooked outside .

And they watched the stars at night .

(ここに絵が入る)

参考：鶴田峰子 Story-Reproducing - 生徒に英語を話させる工夫 -

英語教育 1996年10月号(大修館書店)

9 第5回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案10月

1. 日時：平成12年10月10日（火） 第5校時（13時25分～14時15分）
2. 授業者：本多敏幸（江東区深川第八中学校）、David Thomson（ALT、British Council）
3. 学年，組，（人数）及び授業場所：2年3組（男子13名 女子18名 計31名）教室
4. 単元名及び使用教科書：トピック「休日」、本時は教科書を使用しない
5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容
 - (1) 身近な話題についての会話が継続できるようにする。
 - (2) 聞いたことについて、その内容をレポートできるようにする。
6. 本時のねらい

「生徒が発話内容を自分で考え、相手に伝えようとする態度を育成する授業」
7. 評価
 - (1) 意欲的に英語を聞いたり、話したりしているか。
 - (2) 既習の英語表現、知識、会話技術を積極的に使おうとしているか。
 - (3) ペアで協力して会話を継続させようとしているか。
8. 指導過程

経過時間	指導過程	生徒の活動	教師の指導・援助		4技能
			JET	ALT	
20分	1. あいさつ	大きな声であいさつする。	あいさつする。	あいさつする。	S L
	2. Bingo Game	単語を聞き取り、あらかじめ各自で記入しておいた用紙をチェックしていく。	モニターする。	単語を読み上げる。	W R L (Word level)
	3. Report	ペアを組み、一方がJET、もう一方がALTから休日の情報を聞きとり、それをパートナーにレポートする。	生徒に情報を伝える。 モニターする。 評価する。	生徒に情報を伝える。 モニターする。 評価する。	S L
30分	4. 会話表現の導入 Dialogue Game	会話表現を確認する。ターゲット文をゲームを通して何度も言う。	会話表現を導入する。 活動に参加する。	会話表現を導入する。 活動に参加する。	S L (W) S L W
	5. One Minute Chat	2人1組となり、定められた英文から自由に会話を1分間	生徒の活動をモニターする。 (生徒数が偶数	生徒と会話する。	

		(または教師が提示した時間)続ける。(3回)各回に教師が提示した目標を意識しながら会話を行う。会話のあとで、パートナーから得た情報を2~3文程度の英文で書く。	の場合は、生徒のパートナー役となる。)1回のチャットごとに会話の目標を提示する。3回行い、毎回1組を録音し、全体にフィードバックする。	生徒との会話を録音し、生徒に聞かせることでモデルを示す。	
50分	6. あいさつ	あいさつする。	あいさつする。	あいさつする。	S L

9. 生徒の(指導課程5. One Minute Chat における)発話記録

生徒A(1回目)

How was your holiday?

どこ行ったとかないの? ないの?

聞き返す言葉とかあるじゃない。

It was great. I went to Bunkasai in Soka high school. It was fun and exciting.

生徒A(2回目)

How was your holiday?

Oh, you study Japanese.

It was great. I went to Bunkasai in Soka high school on Sunday.

Yes. What did you do on Sunday morning?

Relaxed?

生徒A(3回目)

How was your holiday?

生徒B

It was great.

ない、んで?

How was your holiday?

..... 終わり?

よっしゃ

生徒C

It was so-so. I... I studied.

Yes. How how ... was your ... Ah ... holiday? ..

Oh your ... oh, You go to Bunkasai.

It ... was ... relaxed.

生徒D

Oh, you . . .shop, you went shopping? Who with?

Where is your shopping?

Ginza. You went Ginza.

It . . .was . . .great . . . I went to Bunkasai in Soka High School on Sunday.

AET (1 回目)

How was your holiday?

AhMm

What did you do?

Really? You played computer games.

What computer game did you play?

Oh, cool! Who with?

It was great too. I sang Karaoke on Monday.

My Friends.

A E T (2 回目)

How was your holiday?

Really? You went to Shinjuku.

Oh, what did you eat?

mint?

. . .Oh, what kind of meat did you eat? Curry or Yakiniku?

It . . . was . . .greatAh I , I went to shopping .

I . .went with my mother .

I went to Ginza .

Oh, Yes. How about you?

Who with?

生徒 E

It was greatMm

MmI play . .ed . . computer games . . .

えっと Dragon Quest 7

Mm . . .Eemy brother . How was your holiday?

Mm . . .Who with?

生徒 F

It . . was . . . fun . I . .I went to Shinjuku .

I ate dinnerwith my family .

Ah . .mea . . .too

meat . . .

Yakiniku .

Oh, wow that's great.

Mm, I had a great time, too. I went shopping in Shinjyuku.

Mm. I bought a new jacket.

Yeah. Do you like Shinjyuku?

Ginza, wow you have money.

A E T (3 回目)

How was your holiday?

Game center, cool. . . . What game did you play?

Oh. . . . Who with?

Mm. . . Where did you play? Where? Chihama. . . .

Shibuya. . . . Toyochō.

Oh. . . cool.

It was exciting. I went dancing.

How was your holiday?

Oh, that's great.

Really?

Yeah. . Ah. . . I, I like Ginza. . .

No. . .

生徒 G

It . . was . . . great . . I . . . go .to . I go to . I go to .
game center.

. Medal game

Freinds.

How was your holiday?

10月授業の協議会より

(1) 授業者からの Student Talk 指導に関する補足説明

Student Talk を促す活動 - One Minute Chat について

目的

- ・与えられたトピックについて、自分で考えて発話ができるようにする。
- ・身近な話題についての会話を、継続できるようにする。

指導方法・手順

- ・教師が提示した目標を意識しながら、生徒は会話を行う。
- ・2人1組となり、定められた英文から、自由に会話を1分間継続して行う。
- ・会話の後で、パートナーから得た情報を、2文程度の英文で書く。
- ・テープレコーダーで3ペアの会話の記録をとり、会話終了後、録音したテープを、クラスの子に聞かせる。
- ・普段は1つのユニット(同じ話題)で3回チャットを行うよう設定しており、3日連続

で行い、レベルを徐々に上げていくが、今回は1時間の授業の中で同じ話題で数回行うことによりレベルを上げた。

- ・すぐに録音したテープをサンプルとしてクラスの生徒に聞かせ、教師がアドバイスを与えることで、会話を継続するための方法や適切な表現を習得できるようにしている。

問題点

- ・生徒の既習語いが少ないので、会話の質・量に影響しているのではないかと考えられる。
- ・文法は気にしないで、単語レベルでの会話も可と言っているが、生徒は、英文を間違えないで言うことに気を使ったり、事実を言おうとして考え込み、会話を継続が難しいことがある。
- ・普段は1つの指導目標文を、3回の授業に分け、レベルを徐々に上げているが、今回は1時間の授業で、3回連続して行いレベルを上げたため、生徒にとっては、やや難しかったと思われる。

(2) Student Talk 指導に関する授業者との質疑応答(Q&A)

Q：ペアの組み方はどのようにしているのか。

A：ペアを固定することも考えられるが、今回は、生徒が自由にペアを組む方法を取った。

Q：echo を使っていたペアがいた。どのように指導してきたのか。

A：これまでも One Minute Chat を行っている中で、その中で学習してきたと思われる。

(3) Student Talk に関する指導への改善策・提案など（参観者と授業者自身も含む）

- ・ゴールを示す（会話の目標文を設定する）ことでわかりやすいが、目標が増えると、使用すべき文の数も増えるので、1分間では難しいのではないか。
- ・生徒の会話を紹介した後に、ALTからのゴール（目標）についてのコメントがあってもよいのではないか。
- ・Brain-storming で、生徒が心の中に考えていることを、文字や絵で表現させる方法も考えられるのではないか。
- ・ペアを固定すると、人間関係が出来ている者同士の会話となるので、信頼関係があり、会話も安心してできる点があげられる。相手が黙り込んでしまった時などに、相手が答えやすいように代わりの質問を出せることもある。
- ・ALT が、話相手の生徒の発話を引き出していた。会話を継続させるモデルとして、ALTの発話内容をクラス全体に紹介したら、他の生徒にとっても、よい参考になるのではないか。

10 第4回ワークショップ

1 杉並区立和田中学校 大貫由季

2 活動名

ピクチャーリレー

3 授業での位置づけ

未来形を復習した後、それをを用いた言語活動として（対象学年：2年生）

4 必要時間

20分

5 準備するもの

未来形のカード(will, am / are / is going to)、疑問詞のカード、ピクチャーリレー用のシート

6 手順

(1)カードを用いて、未来形と疑問詞を用いた文の口頭練習

(2)シートを配る

(3)テーマの記入「すばらしい明日」

(4)教師は未来形を使った文を言い、生徒はそれに合う絵を描く

(5)友達へシートを渡す

(6)自分に渡されたシートに、次に教師が言った英文に当たる絵を描く

(7)(4)～(6)と同じことをを3、4人分まで繰り返す

(8)シートを持ち主に戻す

(9)描かれた絵について2分くらい英語で話してみる。

7 効果

(1)習った単語や文の練習になる。

(2)絵を見て自由なイメージで会話ができる。

8 問題点

(1)絵を描きたくない子をどのように活動に参加させるか。

(2)日本語でのおしゃべりになってしまうことがある。

(3)会話が続かない。

(4)生徒の状況に合わせた時間設定（10秒からはじめだんだん長くしていくなど）が難しい。

(5)生徒の実体にあったテーマ設定が難しい。

9 データ

（生徒の発話）

生徒A・I will get up at eight in the morning. / I will go to bed at eight in the evening. / What will you study? / What will you read?

生徒B・I will get up nine. / I will go to park. / What will you watch tomorrow? / What time will you go to bed?

生徒C・I will read a book of Akageno-Ann. / I will study English.

生徒D・I will watch Asayan. / I won't go to bed.

1 1 第 6 回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案11月

1. 日時：平成12年11月7日（火）
2. 授業者（学校名）：阿久津 仁史（文京区立第八中学校）
3. 学年，組，（人数）及び授業場所：1年2組（男子12人 女子13人 計25人）教室にて
4. 単元名及び使用教科書：Lesson 8 "What Time Is It?" 「NEW CROWN 1」（三省堂）
5. 本時までの Student Talk に係わる指導内容

(1) 今回の Student Talk のねらい

「相手の答に応じて相づちを打ったり、質問を付け加えたりできるようにする」ことをねらいとし、授業で指導・練習後、2学期末に ALT との Speaking Test の予定を生徒に告げた。

(2) 都中英研・研究部授業研究11/7（火）までの Student Talk に関する指導内容

- 9 / 14（木）一般動詞の三人称単数現在の肯定文の自己表現の文を発表させる。
- 9 / 18（月）一般動詞の三人称単数現在の疑問文の自己表現の文を発表させる。
- 9 / 20（水）一般動詞の三人称単数現在の否定文の自己表現の文を発表させる。
- 9 / 25（月）short pair conversation で What sport do you like?の質問に応じた対し答え、さらに相づちなど交えながら会話を続けさせる。
- 9 / 27（水）short pair conversation で What food do you like?の質問に応じた対し答え、さらに相づちなど交えながら会話を続けさせる。
- 9 / 29（金）班対抗の10 questions のゲームで、疑問文を使ってある名詞を当てさせる。
- 10 / 3（火）ALT との T・T の授業で、事前に考えて来た ALT への質問をさせる。その際、自分のことを話してから質問するように指導。
- 10 / 13（金）short pair conversation で What TV do you like?の質問に対し答え、さらに相づちなど交えながら、会話を続けさせる。
- 10 / 19（木）can の肯定文を使った自己表現の文を発表させる。
- 10 / 30（月）can の疑問文を使った自己表現の文を発表させる。
- 11 / 1（水）can の否定文を使った自己表現の文を発表させる。
- 11 / 2（木）short pair conversation で Who is your favorite sport player?の質問に対し答え、さらに相づちなど交えながら、会話を続けさせる。

6. 本時のねらい

- (1) short pair conversation を通じて、なるべく自然な英語の会話を続ける
- (2) What time ~? を用いた一般動詞の疑問文とその答え方に慣れ、先生方の1日の予定等についての問答ができる

7. 評価

- (1) short pair conversation を通じて、What time do you ~?等を使った会話を続けられたか
- (2) What time を用いた一般動詞の疑問文とその答え方の作り方を理解し、簡単な会話ができただか

8. 指導過程

時間	過程	学習項目	言語活動等	指導上の留意点 教材・教具	評価
3分	1 挨拶と会話	1 英語で挨拶する	(T)Good afternoon, everyone. (S)Good afternoon, Mr. Akutsu. How are you? (T)I'm pretty well, thank you. How are you? (S)I'm pretty well too,thank you	様々な挨拶を覚えられるように挨拶を適宜変える	元気よく挨拶できたか
		2 天気等に関する会話を行う	(T)How's the weather? (S)Sunny/Cloudy/Rainy/Snowy. (T)What's the date today?	天気・曜日・日付等を板書し、書かせる	天気・曜日・日付・休み等を言えたか
7分	2 ウォームアップ	1 英語で歌を歌う	(T)Let's sing "Every child has a beautiful name."	CDに合わせて歌を歌う	楽しく大きい声で歌ったか
		2 なぞなぞを考える	(T)What is behind a star?	教科通信を使いあてたペアにハンコを押す	ペアで協力して考えたか
8分	3 復習	1 復習読み	7課を一人一文ずつ読んでいく (chain work)	教科書を使う	正しい発音で音読できたか
		2 宿題の答え合わせ	ワークとノートを開かせ、重要な問題は全体で答え合わせをする	自分で答え合わせをさせる	不明な点をなくしたか
15分	4 関	Short Pair Conversation	例(T)What music do you like? (S1)I like ~. (T)What song do you like?	机間巡視をして質問に答える 自発的に発表	不明な点を質問し、自然な会話をしたか
7分	5 導入	What time を使った応答の理解	(T)What time do you get up, S1? (S1)I get up at six. (T)What time does S1 get up, S2?	教科通信を用いる	作り方を理解したか

8分	6 關	What time を用いた pairwork	What time does ~? He/She ~ at ... を用いて、ワークシートの先生方の1日の予定を埋める	全員が参加するように配慮する 教科通信を使う	意欲的に参加しているか
----	-----	-------------------------	---	---------------------------	-------------

1分	9 關	宿題提示	Lesson 8 2の本文ノートを写す 自己表現 BINGO	板書する	宿題を理解したか
1分	10 擲	挨拶	(T)See you next time , everyone . (S)See you next time ,Mr. Akutsu .	様々な挨拶を覚える配慮をする	元気よく挨拶しているか

9 . その後の授業改善について

- (1) 「teacher talk をさらに増やした方が良い」という指摘を受けて、1時間の授業で話す英語を全てリストアップし、ALT のアドバイスを元に teacher talk を増やした。
- (2) 「復習読みに時間がかかり過ぎる」という指摘を受けて、復習読みの代わりに前時に学んだパートをペアの一方が読みもう一方が相づちを打っていく、という指導を取り入れた。
p.21 6(1)参照
- (3) 2学期の終わりに、「ALT からの5つの質問に答えて、extra information を付け加える」という speaking test を行った。

10 . 生徒の発話記録

- (1) S1 : What music do you like?
S2 : I like *enka* .
S1 : Really? Very much?
S2 : Yes .
S1 : What else?
S2 : I like classical best .
S1 : Who is your favorite?
S2 : I like Bach .
- (2) S3 : What music do you like?
S4 : I like pops .
S3 : Who's your favorite singer?
S4 : I like Southern All Stars .
S3 : Oh , me too . What else?
S3 : I like Porno .
S4 : Pardon?
S3 : I like Pornography .
S4 : Oh , I see .

- (3) S5 : What music do you like?
S6 : I like pops .
S5 : Who is your favorite singer?
S6 : Dreams Come True .
S5 : Why?
S6 : My sister likes Dreams Come True very much .
- (4) S7 : What music do you like?
S8 : I like pops .
S7 : How about you?
S9 : I like pops too .
S8 : What music do you like?
S7 : I like classical . What singer do you like?
S8 : I like Hana & Hana .
S9 : Oh , me too .
- (5) S10 : What music do you like?
S11 : I like pops .
S10 Oh , do you? What else?
S11 : I like classical too .
- (6) S12 : What music do you like?
S13 : I like pops . How about you?
S12 : I like music too . What else?
S13 : Classical .
S12 : Classical? Why?
S13 : It is fun .
S12 : OK .
- (7) S14 : What music do you like?
S15 : I like pops .
S14 : Me too . Who's your favorite singer?
S15 : I like L'arc-en-ciel . How about you?
S14 : I like Beatles .
- (8) S16 : What music do you like?
S17 : Godaigo .
S16 : Who is this?
S17 : They are from USA . What music do you like?
S16 : I like Back Street Boys .
S17 : Who's your favorite in them?
S16 : Super Roy .
S17 : Oh , me too .

- (9) S18 : What music do you like?
 S19 : I like classical .
 S18 : What song do you like?
 S19 : I like "Lion Heart" .
 S18 : Oh , me too . What else?
 S19 : I like "Zoo" too .
 S18 : I see . Thank you .

1 1月授業の協議会

(1)Student Talk 指導に関する授業者との質疑応答

- Q: 「short pair conversation の活動中の中で、Well, I see.などの表現が聞かれたが何か指導をしているのか? 」
 A: 「相手の言ったことに対して、Well や Do you?などを使って応答するよう指導している。I see.については、教科書で既習の表現を使ったものと思われる。普段から、Yes. No.だけで答えず、Extra information を加えるよう指導している。」
 Q: 「short pair conversation の時間は書くことの時間なのか。会話の時間なのか? 」
 A: 「イメージとしては、スキット作りの時間である。」
 Q: 「short pair conversation の活動の際に、生徒にその内容の全文を書かせている意図は何か? 」
 A: 「会話が長くなればなるほど、忘れてしまうので、書かせてみた。」
 Q: 「short pair conversation の活動中の Student Talk に関して、未習と思われる should や best が出てきたが、どのような指導をしたのか? 」
 A: 「should については、前回同様の活動をした時に生徒の中からでてきたものである。best については、机間指導をしている時に質問されたので、教えたものである。」
 Q: 「プリント question patterns の表現の選定はどのようにしているのか? 」
 A: 「今までの活動の中で、生徒が必要とした表現を入れている。」
 Q: 「今後どのような活動を考えているのか? 」
 A: 「short pair conversation には、ある程度慣れてきているので、次は ALT とのインタビューテストをする予定である。」

(2)Student Talk に関する指導への改善策・提案など

会話の流れ(discourse)がおかしい部分があるので、ある程度基本パターンを練習する必要があるのではないかな。

個々のペアが発表したあとに評価することで、(形成的評価)、それが次のペアへのアドバイスになるのではないかな。また、次回同様の活動をする時にも効果があるのではないかな。ある程度活動に慣れてきたら、常に書いたものを見ないと会話できないという状態を避けるためにも、メモをとらせる程度にとどめた方が良いのではないかな。

未習の語いでも、生徒が必要としたならば使わせることも大切である。また、既習の語いで忘れていたものをリサイクルさせたり、異なった場面でも使えることを教えることも同時に必要なことではないかな。

スキット発表をする場合など、どんなに上手にできたものでも listeners が key word を捉えられなければ、全体を理解することができない。生徒の意図するところより、多少的確性を欠く表現になってしまっても既習の語いで listeners にわかりやすく表現することも大切ではないか。

また、vet(veterinarian)のような未習の語いを使った場合には、a vet, an animal doctor のようにそれをわかりやすく言いかえる力をつける必要があるのではないか。

未習・既習に関わらず、良い表現についてはとりあげて、他の生徒にフィードバックする必要があるのではないか。

今回の short pair conversation は、よくできていたものが多かったが、教師が与えた words と question patterns をうまく組み立てただけかもしれない。このパターンが崩れた時に生徒がどうするかを考えておくことも大切である。「このプリントにのっていないことを1つくらい言ってみた方が良い」というような助言を与えておいた方がよいのではないか。

1 2 第7回研究部会

都中英研・研究部授業研究用 授業案12月

1. 日 時： 平成12年12月15日(金)第6校時(14:30~15:20)
2. 授業者： 瀧口 均 (新宿区立牛込第一中学校) Andrzej Klimazewski(ALT)
3. 学年、組、人数： 1年B組(男子17名、女子12名、計29名)
4. 単元名及び使用教科書：Lesson10'On Sundays'「New Crown English Series 1」(三省堂)
5. 本時までの Student Talk に関わる指導内容

(1) Pre-Talk Stage：1年2学期の為、unprepared な会話をするために予備段階が必要。
 具体的には生徒にQAパターンと(communication strategies)
 を徹底的に指導した。

(2) 1 Minute Talk Stage：1分間トクを教科書のトピックに沿い7、8回程度実施した。

6. 本時のねらい

- (1) 現在進行形の基本的な用法を理解させ、その構文を利用した発話を各生徒から引き出せるように援助する。
- (2) 教科書 Lesson10 part 1 の本文の音読に目標を持たせ、個に応じ行なわせることにより、Speaking に転移できるように援助する。
- (3) 教科書 Lesson10 part1 の英文を暗唱段階まで高め、それらの英文を使った1 minute talk を段階的に行なう。その1 minute talk を通し友達との英語でのコミュニケーションをする楽しさを知ってもらう。
- (4) 授業の各場面で 英語を使おうとする積極的態度を評価し、主体的に英語で表現しようとする態度、能力を育成する。これらの指導・支援により、生徒へ「実践的コミュニケーション能力」の育成を図る。

7. 評価

- (1)Lesson 10 part 1 の本文内容を段階を追った Reading やTFクイズ等で十分理解できたか。
- (2)Lesson 10 part 1の本文内容を暗唱、発話の段階まで高め、それらの表現を使ったトクができたか。
- (3)指定された時間内で英語での対話を維持し、自分の言いたいことを対話相手に伝えることができたか。
- (4)相手の発話を聞き、英語で即興の応答をすることができたか。
- (5)ALTとJTEが協力し、役割分担が明確で、生徒への援助を効果的に行うことができたか。
- (6)生徒各人が授業に楽しく参加し、次の授業への意欲を持たせることができたか。

8. 指導過程

指導過程	生徒の活動	JTEの指導、支援	ALTの指導、支援
1. あいさつ 2. Newspaper topic Q&A	元気に挨拶 英字新聞の話題を聞き、質問する	挨拶と small talk 生徒が質問をする 支援をする	挨拶と routine question 本日の英字新聞から中1向きの話題を話す

3 . 新出文型の導入	現在進行形の基本的な用法の学習	英国の中学校のビデオを活用	現在形と現在進行形の形の違いを説明
4 . Oral Introduction	英語による本文内容紹介	interactive になるように配慮	JTE とのやりとりを入れる
5 . 新出単語	絵を見て意味を推測する	モニタ - する	Picture Word Card を利用した導入
6 . Reading aloud	Model Listening Repeating Buzz Reading Paced Reading	チャンクごとに読む支援する モニタ - する	Model Reading 発音チェックをする 発音チェックをする
7 . 内容確認	T F クイズ	モニタ - する	5 つの英文を読み上げる
8 . Dialog for Talk	ト - クモデル Pair Reading	A L T と J T E がト - クのモデルを提示支援する	発音チェックをする
9 . 1 Minute Talk	Brainstorming 1st Stage 2nd Stage Demonstration	ト - ク準備をさせる 一部スクリプトを見てもOKとする 即興で行なわせる 評価、還元する フィ - ドバックさせる	援助、支援する ト - クをチェックをする ト - クをチェックをする Evaluation , Advice 個から全体への還元
10 . 自己評価	自己評価表記入		
11 . 挨拶	元気に挨拶	挨拶する	挨拶する

9 . その後の授業改善について (その他)

これまで1年生の2学期では即興対話の1分間ト - クは無理と思っていた。しかしト - クに向けてのシラバスと指導の工夫により、十分可能であることが実証できた。更に各クラス半数以上の生徒が1分半以上 (1年2学期12月時点で) のト - クが可能になってきた。反面ト - クモデルのスクリプトもなかなか暗記できない生徒も一部残る。これらの生徒に配慮するために、ト - クの予備段階に細かいステップを入れることが重要であることも分かってきた。

1 2月授業の協議会より

(1)授業者からの Student Talk 指導に関する補足説明

1年生のこの時期で talk を成立させるのは難しいと考えていたが、やってみると2年生とは差があると言っても、できなくはないということが分かった。

(2)Student Talk 指導に関する授業者との質疑応答(Q&A)

Q : 「model dialog の時の滝口先生と AET の会話が入れ替わっていなかったが、なぜか。」

A : 「お互い、同じような会話のやりとりだったので入れ替えはしなかった。」

Q : 「11月後半から talk の指導を行っているということだが、今日の授業と同じように指導してきたのか。」

A : 「トピックは違うが、同じようなワークシートを使い指導してきた。」

Q : 「Newspaper topic の時、生徒はよく質問していたが、今までどのような指導をしてきたのか。」

A : 「11月から「Q & A 100」のパターンをしっかりと覚えるよう指導してきた。」

*松香フォニックス刊「Quiz Bowl 100」のこと

Q : 「dialog の内容は、しっかりと覚えているのか。」

A : 「あと何時間か使って、細かく説明して行く予定。」

Q : 「check の部分はどのような意図でやっているのか。」

A : 「リスニングの練習になることや、TFのFの部分で間違いを指摘させているので、そこから会話をつなげたい。」

Q : 「発言した生徒を名簿にチェックしているのはなぜか。」

A : 「同じ生徒ばかりにあたらないようにするためである。なお、答が合っているが指名されなかった生徒に対しての配慮として、学期の終わりに公平だったかどうかのアンケートを書かせている。」

(3)Student Talk に関する指導への改善策・提案など(参観者と授業者自身も含む)

model dialog の導入から chorus reading , pair reading に入っていたが、読めていない生徒がいたので、read and look up などを入れたり、もう少しステップを踏んだ方が良かったのでは。

このセクションの学習を初めてして、あそこまで指導するのは分量が多すぎではないか。もう少し余裕を持って指導すべきでは。

1 minute talk の内容で、進行形と現在形が混ざっているなどの間違いをしている生徒がいた。生徒にしゃべらせている間に間違いを発見しないと、間違っただけで覚えるのではないか。

読みの部分でもう少し AET を活用すべきではないか。

マイクを使って、指導していたが、マイクでは子音が聞き取りにくいのではないか。

生徒が話している時に、プザーやチャムなどの音が耳に付いたので、使い過ぎや使う場面を考えた方がよいのでは。

今後の課題

今年度の研究部会はお互いの授業を見合うことにより実に熱の入った協議会になった。また部員による他の部員が開発した指導法の共有・工夫も活発に行われるようになった。その結果、以下のような課題が明らかになった。

- 1 Student Talk を促すため、Vocabulary, Structure などどのような内容の Input が必要より効果的なのか。
- 2 生徒の自由な発話や即興的な発話 (unprepared/impromptu speech) を促すような活動をさらに開発・収集し、提示する。

参考文献

- Teaching the Spoken Language** Brown, G. and G. Yule *C.U.P* 1983
Implementing the Lexical Approach Michale Lewis *Language Teaching Publications* 1997
「オーラルコミュニケーション・・・その考え方と進め方」マーチン・ゲイバイト
大修館書店 1995
「英語教師の知恵袋」上・下巻 長 勝彦 開隆堂出版 1997
Quiz Bowl 100 松香フォニックス研究所 1989

編集後記

Student Talk の研究を続けて今年度で4年目を迎えた。今年度の課題は“ Student Talk の量だけでなく、質も高めていく活動を共有できれば”と、始めた。

毎月1回の定例研究部会は、研究部員のお互いの授業を見合いながら、“たえず課題とどう向き合っているか。改善すべき点はどうか”などと、実証に重きをおいて研究を進めてきた。おかげさ言えば、たまには甲論乙駁とすることもないではないが、それはお互いよりよい研究をめざしているからであり、私にはかえって頼もしくもあり、微笑ましくさえ感じる時がある。

私は忙しさを口実に部会にほとんど顔を出せなくて、部員に迷惑のかけっぱなしであるが、いつも副部長を中心に、部員一人一人は本当によく頑張っている。例えば毎回宿題の多さもさることながら、定例研究会が終わるのが夜の7時8時はざらである。心から感謝したい。

最後になりましたが、この研究を進めるにあたって東京都中学校英語教育研究会宗方隆三会長をはじめ、多くの方々のご協力とご指導を頂いたことに対して、あらためてお礼を申し上げます。ありがとうございました。これからも多くの人に支えられながら、中学校現場に役立つ研究をさらに進めていきたい。

2001年 2月6日 備里川 正人(研究部長)

今年度の研究に携わった研究部員(東京都中学校英語教育研究会研究部)

備里川正人(足立区立新田中学校)	北原 延晃(町田市立本町田中学校)
杉本 薫(中央区立佃中学校)	石井 亨(江東区立南砂中学校)
日臺 滋之(東京学芸大学附属世田谷中学校)	野口 弘子(東京都立南大沢学園養護学校)
鬼山由美子(足立区立第九中学校)	二宮 正男(町田市立忠生中学校)
鶴田 峰子(中央区立日本橋中学校)	滝之入道隆(江東区立第三砂町中学校)
原田 博子(江東区立深川第五中学校)	阿久津仁史(文京区立第八中学校)
横山 牧子(八王子市立宮上中学校)	伊地知義信(豊島区立西巣鴨中学校)
福井 洋子(多摩市立豊ヶ丘中学校)	大河由起子(足立区立蒲原中学校)
滝口 均(新宿区立牛込第一中学校)	関口 智(墨田区立両国中学校)
溪内 明(大田区立東調布中学校)	山本 崇雄(大田区立御園中学校)
稲葉 高広(世田谷区立尾山台中学校)	坂田 恵子(練馬区立石神井中学校)
丸山 篤広(大田区立羽田中学校)	大貫 由季(杉並区立和田中学校)
今村 美苗(足立区立江北中学校)	(事業部所属) 明石 達彦(港区立御成門中学校)

研究部のホームページ <http://www.eigo.org/kenkyu>

発行 東京都中学校英語教育研究会
会長 宗方隆三（港区立芝浜中学校）

編集 東京都中学校英語教育研究会研究部
研究部長 備里川正人（足立区立新田中学校）

発行日 平成13年 2月6日